

8月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

3年8月のD I 値は8指標中、「資金繰り」「雇用人員」の2指標が小幅ながら上昇。主要3指標を含む、残り6指標においては下落となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

解体工事業では需要が好調であった様子。また一部業種からも秋口以降に新規発注が見込める、設備投資や持ち直しの動きがあるとの明るい報告も寄せられた。

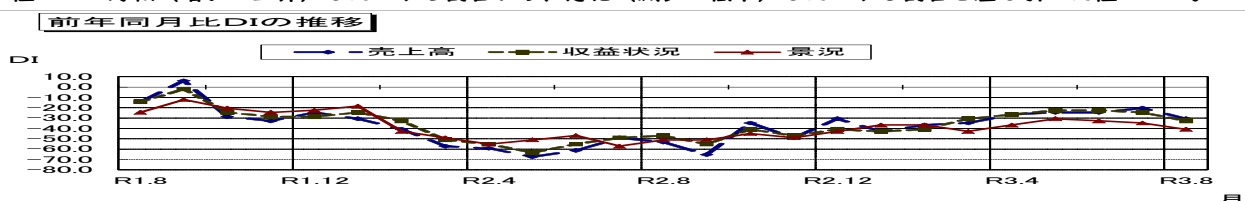
一方、高齢化や人材・後継者不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や燃料価格の高止まりに加えて、長雨の影響を受けた業種も多く、収益を圧迫している。また、長引く新型コロナウイルスの影響により、部品不足の発生、売上や集客を見込めないなど、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	R2 8月	9月	10月	11月	12月	R3 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比 増減
景況	-51.0	-51.0	-44.9	-49.0	-42.9	-36.7	-36.7	-42.9	-36.7	-30.6	-32.7	-34.7	-40.8	-6.1
売上高	-53.1	-65.3	-34.7	-49.0	-30.6	-42.9	-36.7	-34.7	-26.5	-24.5	-24.5	-20.4	-30.6	-10.2
収益状況	-46.9	-55.1	-40.8	-46.9	-40.8	-42.9	-40.8	-30.6	-26.5	-22.4	-22.4	-24.5	-32.7	-8.2
販売価格	-6.1	-10.2	-8.2	-2.0	-6.1	0.0	-6.1	4.1	6.1	12.2	18.4	18.4	12.2	-6.2
取引条件	-18.4	-12.2	-18.4	-16.3	-12.2	-14.3	-12.2	-14.3	-16.3	-18.4	-8.2	-12.2	-16.3	-4.1
資金繰り	-20.4	-24.5	-18.4	-24.5	-24.5	-26.5	-24.5	-18.4	-26.5	-20.4	-14.3	-16.3	-14.3	2.0
設備操業度	-12.2	-18.4	-14.3	-16.3	-14.3	-16.3	-12.2	-12.2	-10.2	-6.1	-6.1	-4.1	-10.2	-6.1
雇用人員	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	0.0	2.0	-2.0	-10.2	-8.2	2.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は89.7%、出荷量は87.4%であった。前月比でみその生産量は91.4%、出荷量は88.9%であり、先月は前年同月に比べ生産量、出荷量ともに増加していたが今月は大幅に減少。また前月比も同様の落ち込みであった。コロナの感染再拡大により、飲食店の自粛が広まった影響も大きいと思われるが全国的には海外向けの輸出の伸びが国内需要の減少をある程度カバーしており今後、海外需要への対応が更に必要になってくると思われる。
2. 漬物・漬物製造業者では収益の回復がみられるが、土産物を扱う業者では依然厳しい状況が続いている。農家では瓜等の収穫も終わり圃場の整備の段階である。いずれにしても労働力の不足に悩まされている。技能実習生の入国の再開が待たれる。

<繊維・同製品>

3. 縫製・繊維業界は、2021年予測では持ち直し傾向にあるという風潮はあるが、地方の中小企業にいたっては、景気回復は遅れる見通しである。原価面では、労務費の占める割合が多く、設備投資が急がれるのが近年の状態である。生産については、従前と同じく次月以降分の製品備蓄を中心に展開しているが、後半に向けて生産効率に注力予定であるものの、なかなか進捗が見えず、労力不足が生産数に影響している。

<木材・木製品>

4. 製材・ウッドショック前に工務店が受注していた物件が一段落し、木材需要にも一服感が出てきた。米国の木材価格も落ち着きつつあるが、コンテナ船は依然として不足しており、年内はこの状況が続くと思われる。
5. 木材・8月については徐々に外国からの木材も入ってくるようになり、木材価格も8月には高止まりになっていたが、そのうち落ち着く気配が見えている。
6. 木材・原木丸太は多少増えつつも、まだ少ない状態。単価的には高騰中。
7. 製材・外材原木入荷が不安定で原木高が続いている。

<印 刷>

8. 印 刷・もともと8月は休みも多く売上が上がらない月である。さらに今年もコロナ禍で、講演会や催し、イベントの影響が売上に大きく響いている。9月も落ち込みが予想される。コロナウイルスの収束は見通せず長期化の様相、ワクチン接種の効果がもっと数値に現れることが期待される。
9. 印 刷・8月の売上、収益とも新型コロナウイルス第5波の影響により非常に悪い月となった。阿波踊りの縮小開催や各イベント・会議の中止に伴い、見込んでいた仕事がキャンセルになった。徳島県が第5波を食い止めるため9月12日まで時短営業の要請をしたため9月も8月同様とても厳しい月になりそうである。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・8月は昨年同月と比較して約12%減少。昨年8月はトンネル工事の舗装用コンクリートの打設があったが、その年以外では毎年この時期お盆休みがあり出荷量は低調である。ただ昨年度より出荷量は少ないが民間工事のまとまった打設があったおかげで例年よりは若干出荷量が増えている。
11. 生 コ ン・8月の出荷数量は、対前年同月比24%減であった。要因としては、月の半ばでの10日間が前線停滞による大雨が続いたこと、出荷数量が前年同時期と比較して、新規物件の減少による。今後の展開としては県・国等の公共工事は、秋口以降に新規発注が見込めるものの前年並みの数量確保は厳しいと思われる。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・取り扱う製品により企業間に差が見られるものの、全体では設備操業度が上昇し売上也若干の増加傾向にある。しかしながら在庫数を多くかかえる企業もあり、依然として厳しい状況が続いている。引き続き、コロナ禍の影響の長期化及び原材料価格の高騰などが懸念されるところであり、今後の景気回復が期待される。
13. ス テ ン レ ス・国内の状況としては、大手を中心に設備投資が徐々に実施され始めたが、コロナウイルスの感染再拡大を受け、感染予防対策強化の必要性が高まり、入場規制や工期の見直しなども実施され様々な追加対応が必要になってきている。海外については地域により状況は異なるが、大きな変化はなく様子見の状態が続いており、Web会議等を実施しているが、なかなか商談は進まない状況である。経済活動の再開に向けた準備と、社員の感染予防を含めた対策を講じつつ企業活動レベルを維持するように努めている。

<一般機器>

14. 機械金属・景況感は、前年同月と比べると、一部に持ち直しの動きも見られるが、県内でも、8月は月間新規感染者数が過去最多となるなど、長引く新型コロナウイルス感染症の影響もあり、営業活動の停滞、投資の中止や延期等により、売上高や引合いなどに厳しい状況も見られ、市場の変化が大きく、先行きの見通しが不透明な経営環境である。また、需要の停滞をはじめ、従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、依然として経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧卸・全国的な販売不振により令和2年産米が市場に大量に残り、令和3年産(新米)の価格が大幅に下落している。

<小売業>

16. ショッピングセンター・前年対比は売上97.7%、客数100.5%だった。前年は改装のため何店舗かが休業だったため100%近くの数字になったと思う。業種別には食品104.8%、飲食103.8%、衣料97.1%、サービス93.2%、身の回り品66.6%となっており、ほぼ先月と同様の傾向だ。現在コロナ禍が猛威を振るっているが、8月は今年に入って既存店としては一番売上の高い月だった。来月も前年は休業の店舗が多かったため、前年対比は今月ぐらいになると予測される。

17. 畳小売業・お盆頃からの2週間続いた雨でカビが大発生。対応に追われ、まだ続きそうである。消毒用のアルコールが今はどこの家庭でもあるので、まず除菌をしてもらうことに。

18. 電気機器・天候不順や給付金の追風もなく、空調機はじめ全般的に動きが悪かった。

19. 各種商品小売業・コロナ感染拡大の影響を受け、集客を見込めない苦しい月となっていた。

<商店街>

20. 徳島市・今年も阿波踊りが商店街内で開催されず、どの店舗も売上は減少しているようだ。更に8月末からの飲食店時短に伴い、終日休む店舗もあった。

21. 徳島市・元々暇な8月ではあったが、昨年はSOGO閉店セールで少し盛り上がりがあった分、売上減少率は高い。その上、まん防でさらに人が出でなく厳しい状況が続いている。

<サービス業>

22. 土木建築業・徳島河川国道事務所の8月の動向は、先月と比較して工務課は新直轄工事は新規工事の工事・業務が増加。一般道改築は大幅減。南方面の業務は増えたが金額的に減少。道路管理課は業務・工事等は同程度で順調に進捗している様子。交通対策課は課全体の工事・業務は少ないが、先月と同程度。全体的に先月と大差はないが、コロナ感染防止対策として7割減出勤となり、自宅での在宅勤務orリモート勤務となり作業量は落ちている。去年度との比較については、業務（工事発注に向けての資料作成量）は増加したが、金額的には各課（工務・道理・交対課）減少。官側の職員体制が不十分なため、技術員の増員ができないか要望あり。技術員増員は現状では集まらない。前年度と比べ、工務では職員の不足により、当組合技術員の作業量が増え職員がやるべき作業をやることとなり、リモート作業の中、難しい対応を迫られ組合技術員は苦慮している。
23. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比0.4%の1,098台、中古車は-10.0%の416台、合計では-2.7%の1,514台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-8.8%の881台、中古車10.8%の422台、合計は-3.3%の1,303台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-3.0%の2,817台と減少。8月の自動車登録状況は、軽自動車の中古車が前年度比10.8%増、登録車の新車は0.4%増であったが、全体では前年度比3.0%減となった。特に落ち込みが大きいのは、登録車の中古車が10.0%減、軽自動車の新車が8.8%減となった。全国的に見ても2ヶ月連続で前年同月に実績を下回っているようで、一部の車種でも供給不足が生じているようだ。業界は相変わらず半導体の供給不足やコロナ禍によるアジア諸国からの部品調達の停滞による生産影響が広がっている。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録車が前年度比10.7%増、軽自動車は7.5%増という結果となった。
24. 旅行業・旅行業の現況は大変厳しい。いつまでこの様な時が続くのか不安でしかない。
25. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R3年・824円）。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が確実に現れてきている。更に、働き方改革への対応（同一労働同一賃金など）、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険（厚生、健康）改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ホテル分野のメンテナンス業においては、従業員に対して「雇用調整助成金」等による休業補償でしのいでいるものの、現在なお収束のめどが立たない状況にあり、一部においては低収入による従業員の職場離れが発生し、従業員の確保定着が大きな課題となっている。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、8月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら、現下の新型感染症の感染状況を見ると、収束の兆しが見えにくく、多様で深刻な影響を及ぼしていくことが懸念され、これを念頭に事業活動に当たっているところだ。
26. 広告業・材料や運送費の高騰で仕入単価が上がっている。コロナの影響が都市部から今頃、地方に出ている。木材の高騰で不動産、工務店が止まっている仕事は回ってこない。

<建設業>

27. 建設業・西日本建設業保証(株)徳島支店によると、令和3年度の県下の公共事業の8月単月の発注状況は、全体で対前年比約9.4%の減となっている。8月末の累計では1.8%減となっている。国や独立行政法人は減少し、県が増加している。
28. 板金工事業・工事発注はウッドショックの影響はあるが思ったよりは発注がきている。ただ8月の2週間連続の雨の影響は相当な打撃を受け、現場は全く進んでいない状態。また8月より材料が値上がりした。年末にも再度値上がり予定となり、見積り出来ない状態になりつつある。
29. 解体工事業・7月後半より8月にかけても公共工事の発注が前年度より大幅増。民間戸建てについても斑模様であるが発注件数が増加している。

<運輸業>

30. 貨物運送業・今月は天候不順とお盆休暇があり営業日数が少なかったために、また新型コロナウイルスの影響もあって全般に低調に推移した。軽油単価は前月比平均で1円強の値下がりとなったが100円台にのり、前年同月比で約20円の値上りで、非常に経営を圧迫している。
31. 貨物運送業・コロナウイルスの影響プラス8月の長雨の影響が出ていて、特に青果物、飲料に影響が出ている。慢性的に、帰り荷がない。軽油価格は高止まりで、かなり厳しい状況が続いている。ダンプは高速道路整備で忙しく好調である。